

校長室からひがしなら通心

(H29年度)

茨木市立東奈良小学校 川上 隆 No. 16

平成29年7月6日(木)発行

U I T E M A T E (浮いて待て!)

もうすぐ夏休みです。そろそろ夏休みの計画を立て始めている人もいるのではないのでしょうか。7月になると海や山のレジャーの話題が届いてきます。実際本州では、あちらこちらで海開きや山開きが行われます。

最近「ゲリラ豪雨」と言われるくらい、突然の大雨に見舞われ、あっという間に周囲が水浸しになってしまう光景をテレビなどでも見かけます。夏休みに最も気をつけたいのは、海や川での水難事故です。

人間は空気を吸うと、体全体の2%だけ水に浮くようにできているそうです。万が一、川や海で流されたりおぼれたりしても、顔が水面から出ていれば鼻や口で呼吸をすることができますね。その2%分が鼻や口になるように、体の状態を保つことができれば、しっかり呼吸ができるはずですよ。

もっと安全な姿勢は、足が下にならないよう水平に体を保つ「背浮き」という姿勢です。足を開いて両手を開いて大の字になってみると、意外と体は浮いてくるそうですが、この形をイギリスでは「スターシェイプ(星の形)」というそうです。

多く人が水に落ちてしまったときに泳ごうとしますが、それはかえって危険な行動です。最近ではこの姿勢で救助が来るまで待つことを「浮いて待て」という合言葉にしているそうですが、スリランカやフィリピン、アメリカなど海外の国でも「U I T E M A T E」という名前のトレーニングを行ったり指導員の養成講習会が開かれたりしているそうです。

日本語が海外でも合言葉になっているなんて、とても不思議な感じがしますね。でも、日本で生まれた救助法が海外の人々や子どもの命を救うことができるのは、素晴らしいことですよね。

学校では一人ひとりの大切な命を守るためにクロールや平泳ぎなどの正しい泳ぎ方を学ぶだけでなく、服を着たまま泳ぐ「着衣泳」の練習を行うところも増えています。

みなさんもそのような事態にあわないように、正しい情報を得て約束を守り、楽しく夏休みを過ごしてください。



ひ とつにみんなでまともろう！
が くりょくと体力をのばそう！
し っかりせいかつしよう！
な かよく友だちとすごそう！
ら んらん夢に向かう東奈良っ子！

あ いさつができる子
い っしょうけんめい勉強する子
う んどうが好きな子
え がおでやさしい子
お そうじをがんばる子

学習のドライバーになろう

車を運転していると、ドライバー(運転手)は道を覚えてしましますが、同乗者(運転しない人)はあまり覚えていません。ドライバーは、皆を連れて行かなくてはならないから、自分で道を調べ、確かめながら車を進めていきます。一方、同乗者は、よほど自覚がないと、ドライバー任せとなり、次に行くときも、道を覚えていないのです。

同じ時間、学習しても、差がつく理由の一つが、こういうことだと思います。ドライバーがドライブの主体であるように、学習者は学習の主体になるべきで、自らを学習のゴールまで導くように、自ら調べていく姿勢や確かめていく姿勢が大切です。

もし、あなたの授業に望む姿勢が、「先生が説明してくれる。先生が言うとおりにノートを取る」では、先生がドライバーで、あなたは、ドライブにおける同乗者と変わりません。先生が案内してくれても、あなた自身が覚えることは少ないのです。「先生の説明を自分の言葉で言い直して記録する」とか、「次の授業では教科書のこの点を聞く」など、授業や家庭学習で、自らが学習のドライバーになることが大切です。

宿題も、やらされるという意識でやっていては、学力はつきません。

たとえば、自分にとってもっともわかりやすい参考書を書店で必死になって探し、自分の貯金からお金を出して購入し、宿題の範囲をその参考書でもマスターしていくことで、学習のドライバーになった人もいます。

学習のドライバーになるための工夫は、他にもあり、人それぞれです。自分がどうなりたのかを具体的にイメージする、目標を文字にして口ずさむ…などをして、学習意欲を高めて学習にのぞむことも一つの方法かもしれません。学習の道につまずいたり、迷ったりしないためにも、学習の名ドライバーをめざしましょう。夏休みに、名ドライバーになるためのコツ(成功の秘訣)は、この7月にあります。それは次号でお知らせしますね。

